

式辞

日ごとに春の気配が増し、門出を祝う桜も開花への準備を急いでいるのではないのでしょうか。本日、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席のもと、茨城県立下館第一高等学校附属中学校第三回の卒業式を迎えられたこと、大変うれしく思います。

ただ今、卒業証書を授与された四〇名の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんは私が校長となって初めての、ここ下館一高附属中の代表生徒たちであり、なんて恵まれた学校で勤務できるのだろうと毎日ワクワクしていました。校内での明るいあいさつ、下級生の面倒見、市内大会での堂々とした戦いぶり、学校説明会での澁刺とした説明と対応、ステージ袖での好奇心旺盛に輝やく眼差し、学校行事での仲間との団結、修学旅行での団らんと弁えた行動、探究発表会での堂々としたプレゼン、そして今日の出で立ち。すべてが湧き出る期待感の源でした。

下館一高での生活も節目を迎えることになりました。ここまでの三年間はいかがでしたでしょうか。我々教員はこの学び舎を選んでくれたことに満足してもらうべく様々な経験の場を提供できるよう取り組んできました。皆さんに自覚はなくとも、それらは確実に身につけており、大きく成長できています。

お年頃であるが故、理想と現実のギャップや自己肯定感、有用感の低下など、悩むことも多いかもしれません。高くジャンプするためには一度グッと沈み込んで、力を溜めて、一気に開放します。そんな予備動作ですから心配することなく、次のステージである高等学校では、仲間とともに元気に、笑顔で生活し、ジャンプアップしていきましょう。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。成長されたお子様の凛々しい後ろ姿に込み上げてくる感情も多いのではないのでしょうか。これまで本校に寄せていただきましたご理解とご協力に深く感謝申し上げますとともに、高等学校でのなご一層のご指導とご支援、ご期待をお願いいたします。

さあ、今日を節目として、ここ下館第一高等学校での第二章が、新たに二〇〇名の仲間を加えスタートしていきます。楽しみですよ。みなさんがリードすることで下館一高の新しい歴史と、この学校に集うすべての人の明るい未来を創れるはずです。我々教員も手伝いますので、張り切って行きましょう！

令和七年三月十八日

茨城県立下館第一高等学校附属中学校長
木村 功